

会員会社紹介

日本無線株式会社

事業統括部 開発企画グループ
豊泉 康明



日本無線株式会社は1915年「匿名組合日本無線電信機製造所」として創立しました。その後、1917年に「合資組合日本無線電信機製造所」、1920年に「日本無線電信電話株式会社」を経て1942年に現在の社名となる「日本無線株式会社」へ改称しました。

1917年頃から真空管の研究を開始し1918年には開発した真空管を使用した国内最初の再生検波方式真空管受信機を製品化しました。この受信機は鉱石検波受信機に比べ格段に感度が良好でした。また、このころ送信用真空管の開発も始めました。その後、真空管を用いた航空機用無線通信機、船舶用無線通信機、ラジオ放送機、ラジオ受信機などの製品化を行いました。



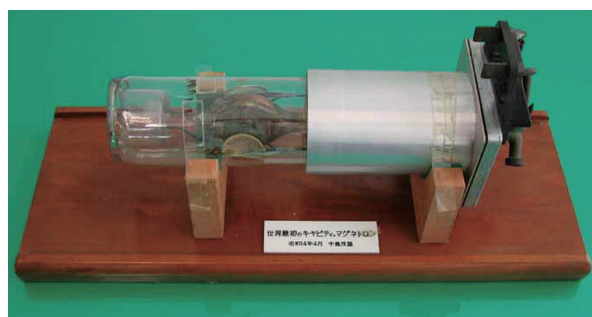
ミリオン受信管（改良型）

1918年に開発し、船舶用受信機として製品化を行い、呉羽丸に搭載されました。

1934年にはマグネトロンの研究を海軍と共同で開始しました。太平洋戦争では、マグネトロンを使用した波長10cmのマイクロ波レーダとして大和を含め多くの艦船に搭載されました。

これらの無線通信技術とレーダ技術を基礎として進化してきた製品群が、今も会社の柱になっています。

現在は主にマリンシステム、防災システム、社会インフラ分野において安全安心、環境エネルギーおよびスマート社会に貢献できるよう事業展開と開発を行っています。



マグネトロン M312（送信用）

マリンシステムでは船舶に搭載された電子機器と陸上システム間でJ-Marine Cloudを介し情報交換を行うことで効率的な運航管理、遠隔メンテナンス、安全管理などを行うシステムを推進しています。

防災システムでは気象レーダ、雨量水位計測システムなどにビッグデータとAI技術を付加した高精度な危険予測技術及びIoTを利用した多様な防災システムに取り組んでいます。

社会インフラでは、ミリ波レーダ、カメラなどの各種センサと無線LAN、LPWA、LTEなどの各種通信方式を組み合わせる交通の安全、街の安全、インフラ老朽化などを見守るソリューションの提供を推進します。

今後も、TTCの活動に参画し、標準化動向や技術動向を業務に反映して行きたいと思っております。



気象レーダ